

CITIZEN

IF5-EFX1

イーサネットインターフェースボード 取扱説明書

Ver.1.01

シチズン・システムズ株式会社

目次

目次	2
ご使用前にお読みください	4
1. はじめに	5
1-1. 特徴	5
1-2. 仕様一覧	6
1-3. 各部の名称とはたらき	7
2. 準備	8
2-1. LAN ケーブル接続	8
3. ネットワーク設定の変更と確認の操作	9
3-1. 概要	9
3-2. パネルボタンの操作	11
3-3. インターフェイスボードの設定情報を印刷する	12
3-4. LED による状態表示	14
3-5. LAN 簡易設定手順例	15
4. Web マネージャ	16
4-1. Web マネージャを起動する	16
4-2. HOME 画面	17
4-3. STATUS 画面	18
4-3-1. STATUS>>System Status タブ	19
4-3-2. STATUS>>Network Status タブ	20
4-3-3. STATUS>>Printer Status タブ	21
4-3-4. STATUS>>Service Status タブ	22
4-4. CONFIG 画面	23
4-4-1. CONFIG>>General タブ	25
4-4-2. CONFIG>>User Account タブ	26
4-4-3. CONFIG>>Maintenance タブ	27
5. NetToolK	28
5-1. NetToolK をインストールする	28
5-2. 情報リスト画面	31
5-3. 設定画面	33
5-3-1. 「全般」タブ	33
5-3-2. 「無線 LAN」タブ	33
5-3-3. 「プロトコル」タブ	34
5-3-4. 「ユーザーアカウント」タブ	34
5-3-5. 「メンテナンス」タブ	34
6. XML 機能	36
6-1. 概要	36
6-2. CONFIG>>Service タブ	37
6-2-1. XML Print	37
6-2-2. XML Config	37
6-2-3. Submit / Reset ボタン	37

7. SSL/TLS 機能	38
7-1. 概要	38
7-2. CONFIG>>SSL/TLS タブ	40
7-2-1. SSL 設定画面	40
7-2-2. 自己署名証明書作成画面	41
7-2-3. 署名証明書更新画面	42
7-3. 自己署名証明書を使用した SSL/TLS 通信を有効にする手順	43
7-3-1. 自己署名証明書の作成とエクスポート	43
7-3-2. ブラウザでの自己署名証明書のインポートの例(Chrome)	48
7-4. SSL/TLS、証明書関係の仕様	52
7-4-1. SSL/TLS 通信仕様	52
7-4-2. 自己署名証明書関連の仕様	53
7-4-3. CA 署名証明書関連の仕様	54
7-4-4. 保存された証明書の工場出荷設定復元・ファームウェアアップデート時の扱い	54

ご使用の前にお読みください

ご使用前に必ず本書をよくお読みください。読み終わった後は大切に保管し、必要な時に読み直しできるようにして下さい。

- 本書の内容は、予告無く変更されることがあります。
- いかなる手段によっても、本書の内容を無断で転写、転用、複写することを禁じます。
- 本書の運用結果につきましては、内容の記載漏れ、誤り、誤植等にかかわらず、当社は一切の責任を負いかねます。
- お客様の誤った操作や取り扱い方法、使用環境に起因する損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- データなどは基本的に一過性の物であり、長期的、永久的な記憶、保存はできません。
- 故障、修理、検査などに起因するデータ損失の損害および損失利益などについては、当社は一切の責任を負えません。予めご了承ください。
- 本書の内容についての記載漏れや誤り、不明な点などございましたらご連絡ください。
- プリンターの取扱説明書をあわせて、ご参照ください。

商標

- ・ Microsoft、Windows 7、Windows 8、Windows 10 は米国マイクロソフト社の登録商標です。
- ・ CITIZEN は、シチズン時計株式会社の登録商標です。
- ・ その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

1. はじめに

このたびは、CITIZEN イーサネット(LAN)インターフェースボード IF5-EFX1 をお買い求めいただきありがとうございます。
イーサネットインターフェースボード IF5-EFX1 (以下「本インターフェースボード」)を、弊社バーコードプリンターのイーサネットインターフェースボードとして使用することで、それぞれのプリンターを直接ネットワークに接続することができ、ネットワーク上 PC からプリンターに印刷が可能になります。また、PC とプリンターの相互通信を可能にし、プリンターの動作状況や印刷設定などを PC から確認することができます。さらに、XML 形式のデータから印刷をすることができます。

1-1. 特徴

- IP アドレス取得方法として DHCP、固定 IP、ZeroConf に対応
- ブラウザとユーティリティによる設定変更が可能
- Raw 9100 ポートと LPR の印刷方法に対応
- パネルボタンにより設定情報印刷や設定モードの変更が可能
- LED により接続、動作状態、エラーの把握が可能
- 使用するプリンターにより、XML データによる印刷をサポート
- SSL/TLS 機能によるセキュアな通信が可能
- ボードの一部の設定を行う XML Config 機能

1. はじめに

1-2. 仕様一覧

メイン基板部（ネットワーク）

イーサネット	規格	100BASE-TX/10BASE-T、Full Duplex/Half Duplex オートネゴシエーション
	ポート	RJ-45
ネットワーク	IP Version	IPv4
	プロトコル	TCP、UDP、HTTP、HTTPS、ICMP、DHCP、SNMP
	印刷用ポート	RAW(9100 ポート: 変更可)、LPR
	IP アドレス設定	手動、DHCP

ハードウェア・全体

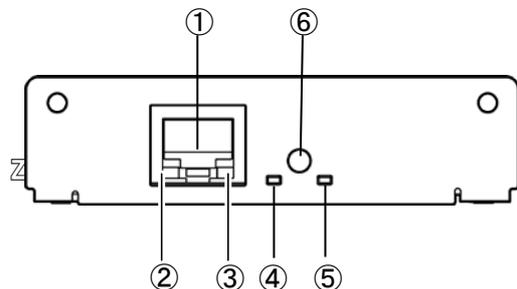
型番	IF5-EFX1	
適用プリンター	CL-S5xx(II)/6xx(II)/70x(II)シリーズ	
ハードウェア	操作パネル	LED 4個(パネル上2個、RJ45 コネクター上2個)、ボタン 1個

ソフトウェア

ソフトウェア	設定変更方法	ブラウザ、PC 設定ツール、クラウド
	ファームウェア更新	ブラウザ、PC 設定ツール、クラウド
	対応プラットフォーム	Windows 7、Windows 8、Windows10、HTML5 ブラウザ

1-3. 各部の名称とはたらき

イーサネットインターフェースボード本体



- ① RJ45 コネクター (10Base-T/100Base-TX 対応)
LAN ケーブルを接続します。
- ② ネットワークの通信速度表示 ※¹
ネットワークの通信速度を点灯・点滅で表示します。(緑色)
- ③ イーサネットステータス表示 LED (黄色) ※¹接続の状況 (接続断やデータ受信中)などを表示します。
- ④ イーサネットの状態表示 LED (緑色) ※¹
- ⑤ イーサネットの状態表示 LED (赤色) ※¹
本インターフェースボードの通信/接続/エラー状況を点灯・点滅の組合せで表示します。
- ⑥ パネルボタン ※²
本インターフェースボードの操作を行います。

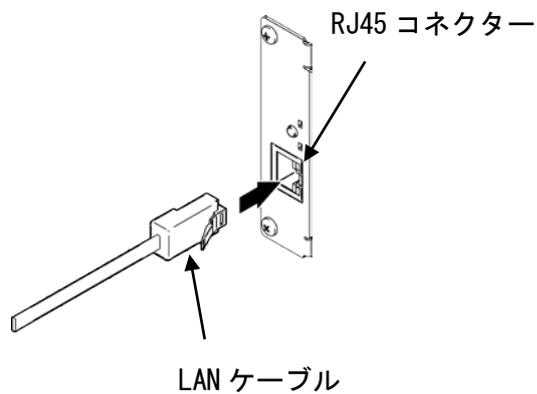
※¹ 表示内容について、詳しくは「3-4 LED による状態表示」(14 ページ)を参照してください。

※² パネルボタンの操作については、「3-2 パネルボタンの操作」(11 ページ)を参照してください。

2. 準備

2-1. LAN ケーブル接続

本インターフェイスボードの RJ45 コネクターに LAN ケーブルを接続します。



3. ネットワーク設定の変更と確認の操作

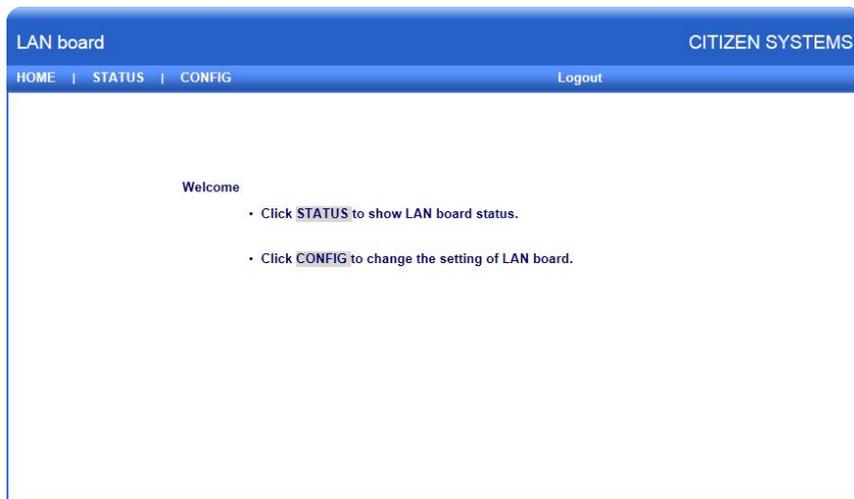
3-1. 概要

本インターフェイスボードは、プリンターの設定とは別にネットワークに接続・通信するためのネットワーク設定の変更と確認の操作が必要になります。

ネットワーク接続の設定変更のためには、3種類の方法が用意されています。

Web マネージャ

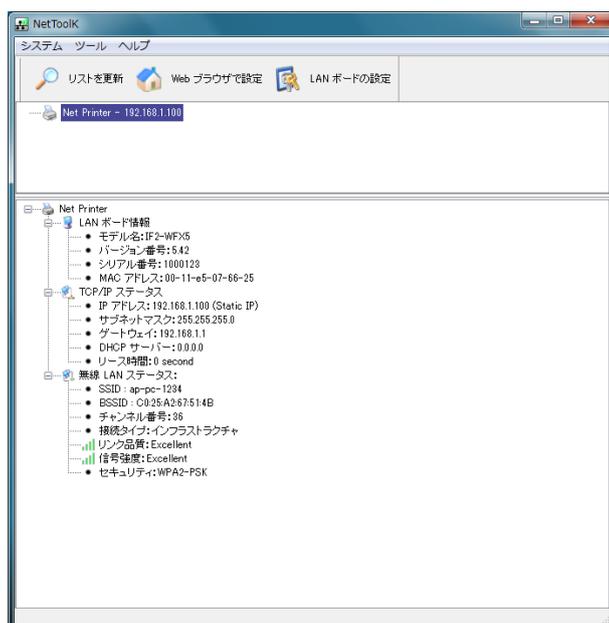
ブラウザから本インターフェイスボードに接続して、専用の設定画面から設定を行います。



Copyright © 2012 CITIZEN SYSTEMS JAPAN CO.,LTD. All rights reserved.

NetToolK

Windows の専用ツールから本インターフェイスボードに接続して設定を行います。



なお、パネルボタンの操作により、現在の設定の確認や初期状態復帰が可能です。

パネルボタンの説明は次ページを参照ください。

また、インターフェイス上の LED にて通信などの状況が確認できます。「3-4 LED による状態表示」(14 ページ)を参照ください。

XML Config

本インターフェースボードには、XML 形式のデータを送ることでボードの一部の機能の設定等ができます。

設定、更新ができる対象の機能は、

SSL/TLS 機能の設定

ファームウェアアップデート

になります。

詳細は、XML Config 用の SDK のマニュアルを参照ください。

この機能用のサンプルプログラムとして JavaScript と Excel VBA マクロが用意されています。

この機能のタイムアウトの設定が、6-2. CONFIG>>Service タブに存在しています。

注意

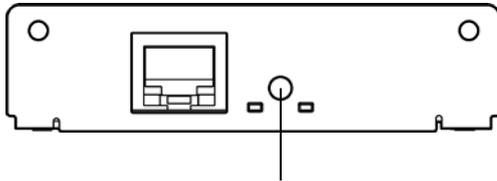
ファームウェアのアップデートを行う場合は、ファームウェアのアップデートの開始後、アップデートが完全に終了するまでは、プリンターの電源切断や通信切断を絶対に控えてください。

ファームウェアのアップデートを行う場合は、弊社より正しいファームウェアデータを入手する必要があります。

ファームウェアのアップデートが正しく行われない場合、本インターフェースボードが起動しなくなる可能性があります。

3-2. パネルボタンの操作

本インターフェイスボードの操作は、操作パネル上のパネルボタンで行います。本インターフェイスボードの設定情報を印刷したり、初期設定に戻したりすることができます。



パネルボタン

■ インターフェイスボードを起動する

プリンターの電源を入れます。電源が入ってから、約 20 秒後に本インターフェイスボードの動作が開始します。

■ インターフェイスボードの設定情報を印刷する

パネルボタンを押します。詳しくは、「3-3 インターフェイスボードの設定情報を印刷する」(12 ページ)を参照してください。

■ 設定モードに切り替える

パネルボタンを長押しします。ブザー※が1回鳴り、設定モードに切り替わります。

・設定モードでは、本インターフェイスボードの設定を初期字の状態に戻すことができます。

詳しくは、「□ インターフェイスボードの設定を初期状態に戻す」(13 ページ)を参照してください。

・設定モードで3秒間何も操作しないとブザー※が1回鳴り、通常モードに戻ります。

※ 本インターフェイスボードが接続しているプリンターでブザーが鳴らないように設定されている場合は、ブザーは鳴りません。

ご注意

操作が完了すると、本インターフェイスボードが自動的に再起動されます。

DHCP サーバーから IP アドレスを自動取得する設定の場合は、以前とは異なる IP アドレスが割り当てられることがあります。

3-3. インターフェイスボードの設定情報を印刷する

パネルボタンを押すと、本インターフェイスボードの設定情報がプリンターから印刷されます。

- ① 印刷される用紙のタイトルです。
- ② 本インターフェイスボードの型名、ハードウェアリビジョン、ファームウェアバージョンです。
- ③ 本インターフェイスボードのシステム情報です。LANボード名、シリアル番号、MAC アドレスが印刷されます。
- ④ 本インターフェイスボードのネットワーク情報です。
- ⑤ イーサネット情報です。イーサネットで接続されている場合に印刷されます。
- ⑥ プリンター情報です。本インターフェイスボードに接続されているプリンターのメーカー名、型名が印刷されます。
- ⑦ 本インターフェイスボードの設定情報です。本インターフェイスボードに格納されている設定情報が印刷されており、現在のネットワークの接続状態とは異なる場合があります。接続状態は、④のネットワーク情報で確認してください。
- ⑧ SSL/TLS 機能の設定情報です。

① {	I/F Board Information
② {	IF5-EFX1(Rev1.1.3): Ver 1.07
③ {	System LAN Board Name : Net Printer Serial Number : 100123 MAC Address : 00:01:02:0a:0b:0c
④ {	Current Network Status IP Address : 192.168.0.2 (DHCP) Subnet Mask : 255.255.255.0 Gateway : 192.168.0.1 DHCP Server : 192.168.0.1
⑤ {	Ethernet Status Speed & Duplex : Auto (100BaseTx Full)
⑥ {	Printer Status Manufacturer : CITIZEN Model : CL-S520
⑦ {	User Configuration DHCP : Enable IP Address : 192.168.0.10 Subnet Mask : 255.255.255.0 Gateway : 192.168.0.1 Print Port : 9100 Receive Timeout : 180
⑧ {	SSL/TLS Certificate : Disable Self-Signed : Not Exist CA-Signed : Not Exist



}

インターフェイスボードの設定を初期状態に戻す

- 1) パネルボタンを長押しして、設定モードに切り替えます。
- 2) 設定モードに切り替わったら、3 秒以内にパネルボタンを長押しします。

次のメッセージが印刷され、本インターフェイスボードの設定が初期時の状態に戻ります。

```
I/F Board  
Information  
  
--!Caution!--  
Print Server will  
automatically restart.
```

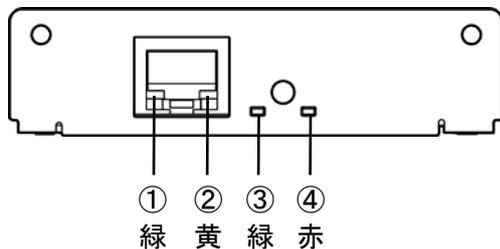
ご注意

操作が完了すると、本インターフェイスボードが自動的に再起動されます。

DHCP サーバーから IP アドレスを自動取得する設定の場合は、以前とは異なる IP アドレスが割り当てられることがあります。

3-4. LED による状態表示

各 LED の表示内容の意味は、次のとおりです。



① ネットワークの通信速度

通信速度	LED (緑)
100Mbps	点灯
10Mbps / 接続断	消灯

② ネットワークとのリンク状態

リンク状態	LED (黄)
接続済み	点灯
接続断	消灯
データ通信中	点滅

③ ④ イーサネットの状態表示

接続状態		LED (緑)	LED (赤)	説明
プリンター未接続		消灯	—	プリンターと接続されていません。
プリンター 接続	ネットワーク未接続	点灯	消灯	プリンターと接続されています。
	イーサネット 接続中	点灯	点滅 (1 秒周期)	イーサネットで、DHCP に IP アドレスを問合せ中です。
	イーサネット 動作中	点灯	点灯	イーサネットでネットワーク動作中です。
リソースエラー		交互点滅(1 秒周期)		正常に動作できない状態です
システムエラー		交互点滅(0.2 秒周期)		正常に動作できない状態です

3-5. LAN 簡易設定手順例

ネットワークの設定に詳しくない場合、以下の手順を参考に、設定してください。

ただし、必ずしもこの手順、内容がお使いのネットワーク環境に適合しているとは限りません。

■ DHCP サーバーから IP アドレスを割り振る場合

1) 本インターフェイスボードに LAN ケーブルを接続します。この LAN ケーブルは、DHCP サーバーが存在するネットワーク環境につながっている必要があります。

2) プリンターの電源を入れます。

プリンターの電源を入れて本インターフェイスボードが起動してから、90 秒以内に DHCP サーバーから IP アドレスを自動取得します。パネルボタンを押して、設定情報を印刷し、割り当てられた IP アドレスを確認します。

詳しくは、「3-3 インターフェイスボードの設定情報を印刷する」(12 ページ)をご覧ください。

3) プリンターにアクセスできる条件が整ったら、Web マネージャで有線 LAN の設定を行います。

同じネットワークに接続している PC のブラウザからプリンターの Web マネージャに接続します。

詳しくは、「4 Web マネージャ」(16 ページ)をご覧ください。

Web マネージャの代わりに、Windows 用のネットワーク設定ツール NetToolK をお使い頂くこともできます。

詳しくは、「5 NetToolK」(28 ページ)をご覧ください。

■ 固定 IP アドレスを使う場合

上記の手順と 2) の部分に違いが出ます。DHCP で自動取得しないため、本インターフェイスボードの ZeroConf 機能により、169.254.XX.YY (XX.YY は環境により異なります) の IP アドレスが割り当てられます。パネルボタンを押し、設定情報を印刷して、割り当てられた IP アドレスを確認します。

お使いの PC の IP アドレスを調整するなどしてプリンターの IP アドレスに接続できるようにします。

以降の手順は、上記の 3)以降と同じです。

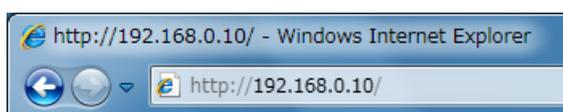
4. Web マネージャ

本インターフェースボードには Web マネージャと呼ばれる機能が備わっており、Web ブラウザから本インターフェースボードに接続し、ブラウザ上で本インターフェースボードの状態確認や設定変更をすることができます。

4-1. Web マネージャを起動する

Web ブラウザのアドレス欄に本インターフェースボードの IP アドレスを入力して、「Enter」キーを押します。

SSL/TLS 機能が有効の場合は、https でも接続できます。



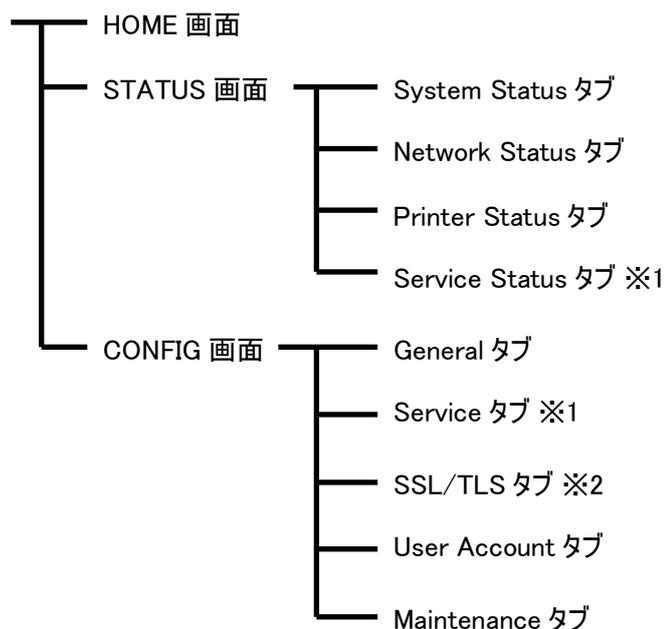
※ 左記の画面はサンプルです。入力する IP アドレスは実際に割り当てられた値を入力してください。

ご注意

- ・ ご使用の PC と本インターフェースボードのネットワーク設定が合っていない場合は、本インターフェースボードの設定画面を表示できません。本インターフェースボードの IP アドレスをご使用のネットワークの設定に合わせてください。
- ・ 本インターフェースボードの IP アドレスは、「インターフェースボードの設定情報を印刷する」で確認できます。

Web マネージャ画面構成

Web マネージャは以下の画面、タブの構成になっています。



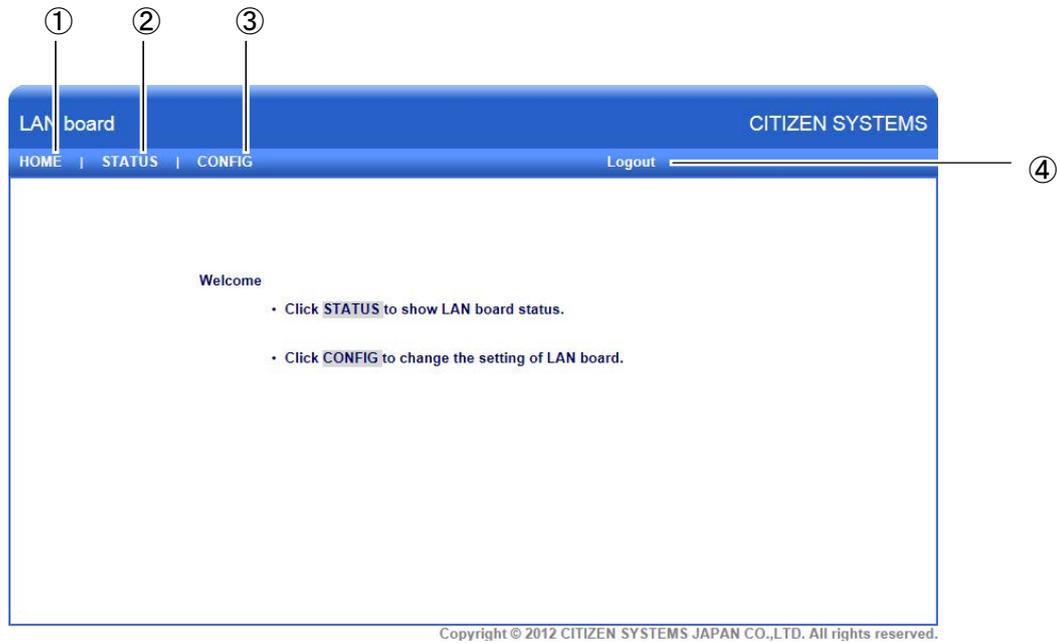
※1 XML・周辺機器制御機能が使える場合、STATUS 画面に Service Status タブ、CONFIG 画面内に Service タブが出ます。

※2 SSL/TLS 機能が使える場合、CONFIG 画面内に SSL/TLS タブが出ます。

XML 機能(Service タブ)については、「6 XML 機能」(36 ページ)、SSL/TLS 機能については「1 」(エラー! ブックマークが定義されていません。ページ)を参照ください。

4-2. HOME 画面

Web マネージャの HOME 画面です。



① 「HOME」

HOME 画面を表示します。

② 「STATUS」

STATUS 画面を表示します。ステータス画面では、本インターフェースボードの状態を確認することができます。

③ 「CONFIG」

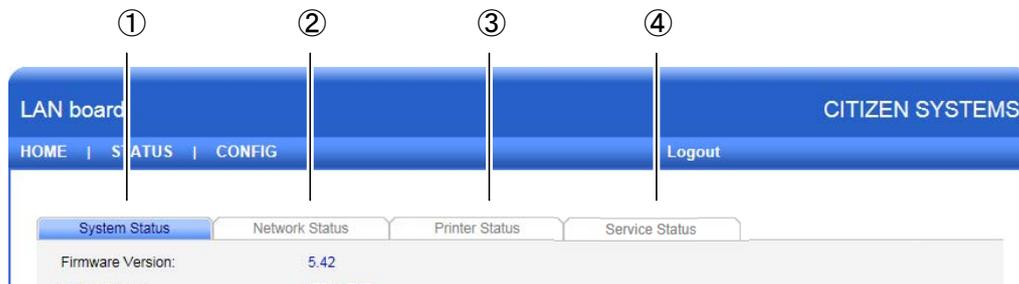
CONFIG 画面を表示します。設定画面では、本インターフェースボードの設定を行うことができます。

④ 「Logout」

本インターフェースボードの CONFIG 画面からログアウトします。同時に複数の PC から CONFIG 画面に入ることとはできませんので、別の Web マネージャや“NetToolK”で設定を行う場合には、ログアウトする必要があります。

4-3. STATUS 画面

本インターフェイスボードの状態を表示します。



- ① 「System Status」タブ
「4-3-1 STATUS>>System Status タブ」(19 ページ)を参照
- ② 「Network Status」タブ
「4-3-2 STATUS>>Network Status タブ」(20 ページ)を参照
- ③ 「Printer Status」タブ
「4-3-3 STATUS>>Printer Status タブ」(21 ページ)を参照
- ④ 「Service Status」タブ
「4-3-4 STATUS>>Service Status タブ」(22 ページ)を参照

4-3-1. STATUS>>System Status タブ

System Status	Network Status	Printer Status
Firmware Version:	5.42	①
Model Name:	IF2-EFX1	②
Serial Number:	1000123	③
MAC Address:	00-11-E5-07-66-25	④
Print Settings		
Raw Port Number:	9100	⑤
Timeout for print data:	180	⑥
LPR Queue Name:	lp	⑦
UPnP:	Enable	⑧

① Firmware Version

本インターフェイスボードのファームウェアバージョンを表示します。

② Model Name

本インターフェイスボードの型番を表示します。

③ Serial Number

本インターフェイスボードのシリアル番号を表示します。

④ MAC Address

本インターフェイスボードの MAC アドレスを表示します。

⑤ RAW Port Number

RAW 印刷の TCP ポート番号を表示します。

⑥ Timeout for print data

印刷時のソケットタイムアウト時間を表示します。印刷の際に、ホストとの TCP/IP ソケットが接続されている状態で、一定時間以上、ホストからデータが送信されなかったら、強制的にソケットをクローズするタイムアウト時間です。“0”の場合には、タイムアウトせずに、ホストからの切断要求があるまでソケットは接続されたままになります。

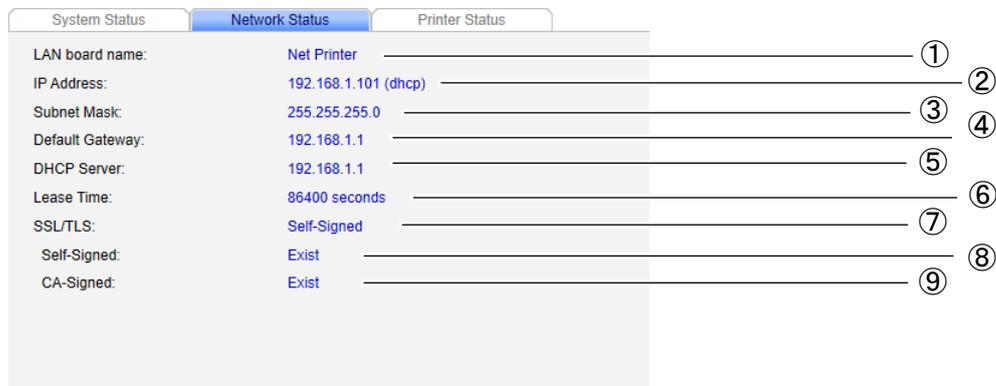
⑦ LPR Queue Name

LPR キュー名を表示します。

⑧ UPnP

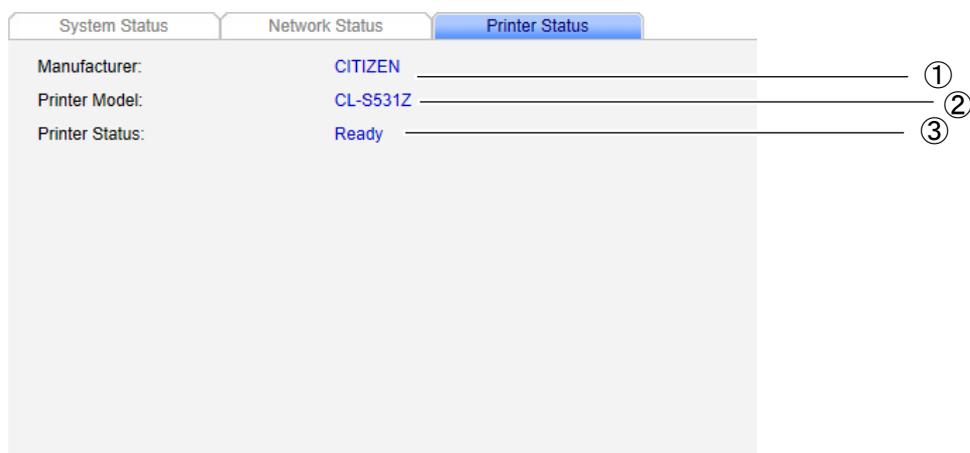
UPnP の設定状態を表示します。

4-3-2. STATUS>>Network Status タブ



- ① LAN board name
本インターフェイスボードの LAN ボード名を表示します。
- ② IP Address
本インターフェイスボードの IP アドレスを表示します。
- ③ Subnet Mask
本インターフェイスボードの Subnet Mask を表示します。
- ④ Default Gateway
本インターフェイスボードのデフォルトゲートウェイを表示します。
- ⑤ DHCP Server
本インターフェイスボードが IP アドレスを取得した DHCP サーバーの IP アドレスを表示します。
- ⑥ Lease Time
DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース時間を表示します。
- ⑦ SSL/TLS
SSL/TLS 機能の状態を表示します。
Disable: 無効
Self-Singed: 有効(自己署名証明書を使用)
CA-Signed: 有効(CA 署名証明書を使用)
- ⑧ Self-Signed
自己署名証明書の登録状態を表示します。
- ⑨ CA-Signed
CA 署名証明書の登録状態を表示します。

4-3-3. STATUS>>Printer Status タブ



- ① Manufacturer
CITIZEN と表示します。
- ② Printer Model
本インターフェイスボードが接続しているプリンターの型番を表示します。
- ③ Printer Status
本インターフェイスボードが接続しているプリンターの動作状況を表示します。
Ready: 印刷可能
Offline: 印刷不可能
Paper Empty: 用紙切れ
Error : エラー状態

(注意) 本インターフェイスボードに接続されているプリンターの Windows のプリンタードライバーの双方向ポートを有効にしている場合には、プリンターステータスが正しく表示されません。この場合は、Windows スプーラー上でプリンターの状態をご確認ください。

4-3-4. STATUS>>Service Status タブ

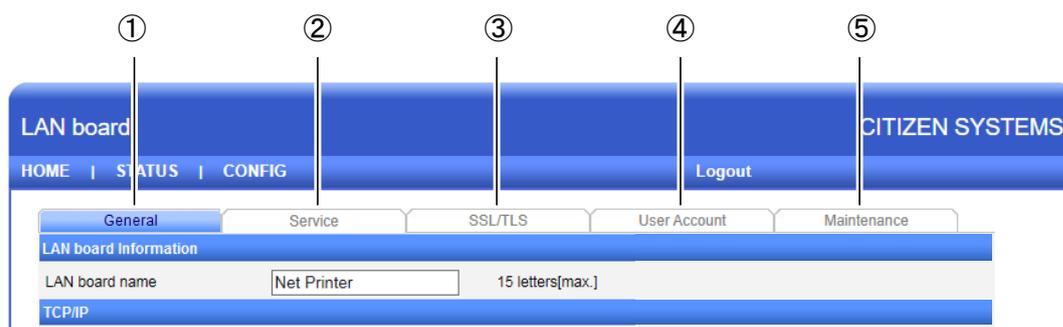
System Status	Network Status	Printer Status	Service Status
XML Print			
Service Version:	2.0		①
Port Number:	8080		②
XML Config			
Service Version:	1.0		③

- ① Service Version:
XML Print 機能のサービスバージョンを表示します。
- ② Port Number:
XML Print 機能で使用する TCP ポート番号を表示します。
- ③ Service Version:
XML Config 機能のサービスバージョンを表示します。

4-4. CONFIG 画面

管理者ユーザーでログインしてから、本インターフェイスボードの設定を行うことができます。

- ① User Name
本インターフェイスボードの管理者ユーザー名を入力します。(初期値: admin)
- ② Password
管理者ユーザーのパスワードを入力します。(初期値: admin)
- ③ 「Login」ボタン
管理者ユーザー名、パスワードを入力して、「Login」ボタンをクリックしてください。設定画面を表示します。
- ④ 「Cancel」ボタン
設定画面の表示をキャンセルします。



- ① 「General」タブ
「4-4-1 CONFIG>>General タブ」(25 ページ)を参照
- ② 「Service」タブ
「6-2 CONFIG>>Service タブ」(37 ページ)を参照
- ③ 「SSL/TLS」タブ
「7-2

4. Web マネージャ

CONFIG>>SSL/TLS タブ」(40 ページ)を参照

④ 「User Account」タブ

「4-4-2CONFIG>>User Account タブ」(26 ページ)を参照

⑤ 「Maintenance」タブ

「4-4-3 CONFIG>>Maintenance タブ」(27 ページ)を参照

4-4-1. CONFIG>>General タブ

General		
LAN board Information		
LAN board name	<input type="text" value="Net Printer"/>	15 letters[max.]
TCP/IP		
<input checked="" type="radio"/> Obtain an IP Address Automatically		
<input type="radio"/> Use the following IP Address		
IP Address	<input type="text" value="192.168.10.100"/>	15 letters[max.]
Subnet Mask	<input type="text" value="255.255.255.0"/>	15 letters[max.]
Default Gateway	<input type="text" value="192.168.10.100"/>	15 letters[max.]
UPnP Setting		
UPnP	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable
Print Settings		
Raw Port Number	<input type="text" value="9100"/>	
Timeout for print data	<input type="text" value="180"/>	0-65535[Seconds]
Action at Timeout	<input checked="" type="radio"/> Close all sessions	<input type="radio"/> Move to next session
TCP Keep Alive	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable
<input type="button" value="Submit"/> <input type="button" value="Reset"/>		

LAN board Information

- LAN board name (初期値: Net Printer)
本インターフェースボードの認識名を設定します。

TCP/IP

- Obtain an IP Address Automatically (初期値)
IP アドレスを DHCP サーバーから自動取得します。
- Use the following IP Address
IP アドレスを「IP Address」「Subnet Mask」「Gateway」に入力された内容で設定します。

UPnP Setting

- UPnP (初期値: Enable)
UPnP を設定します。

Print Settings

- プリンターの印刷機能を設定します。
- Raw Port Number (初期値: 9100)
RAW プロトコル印刷での TCP ポート番号を設定します。
 - Timeout for print data
ホストマシンとの接続タイムアウト時間を設定します。
 - Action at Timeout
Close all connections, Move to next connection の中から、ホストマシンとの間でタイムアウトが発生したときの他のコネクションの処理を選択します。

- ・TCP Keep Alive

TCP Keep Alive 機能を有効にするかを設定します。

「Submit」ボタン

設定を反映します。

「Reset」ボタン

入力した内容をキャンセルします。

4-4-2. CONFIG>>User Account タブ

本インターフェースボードの設定を変更するには、管理者でのログインが必要です。この画面では、管理者ユーザー名とパスワードを変更することができます。

General	User Account	Maintenance
Set User		
New User name	<input type="text" value="admin"/>	15 letters[max.]
New Password	<input type="password"/>	15 letters[max.]
Confirm New Password	<input type="password"/>	15 letters[max.]
<input type="button" value="Submit"/> <input type="button" value="Reset"/>		

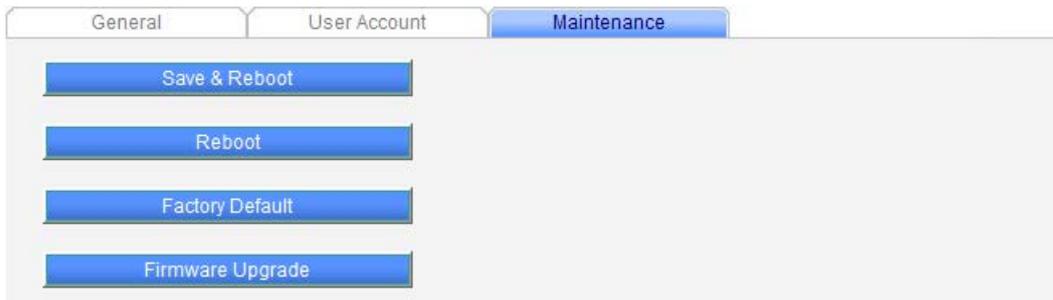
Set User

- ・ New User name (初期値: admin)
新しい管理者ユーザー名を入力します。
- ・ New Password (初期値: admin)
新しいパスワードを入力します。
- ・ Confirm New Password
再度、パスワードを入力します。

注意

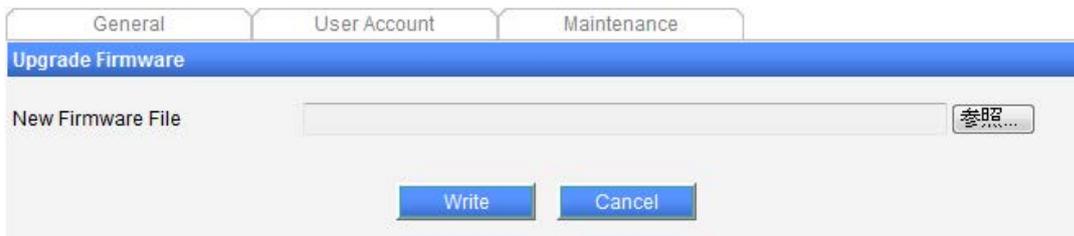
変更したユーザー名とパスワードを忘れた場合は、初期時設定に戻す必要があります。

4-4-3. CONFIG>>Maintenance タブ



- 「Save & Restart」ボタン
変更した設定内容を保存して、本インターフェースボードを再起動します。
- 「Reboot」ボタン
変更した設定内容を保存せずに、本インターフェースボードを再起動します。
- 「Factory Default」ボタン
本インターフェースボードの設定を初期時の状態に戻します。
- 「Firmware Upgrade」ボタン
本インターフェースボードのファームウェアをアップデートします。

ファームウェアアップデート



- 1) 「参照」ボタンをクリックして、ファームウェアファイルを選択します。
- 2) 「Write」ボタンをクリックします。

注意

ファームウェアのアップデートを開始後、アップデートが完全に終了するまでは、プリンターの電源切断や通信切断を絶対に控えてください。

5. NetToolK

Windows 上で動作するユーティリティソフト「NetToolK」を使って、本インターフェースボードの設定変更をすることができます。有線と無線の両方の LAN インターフェースボードに使えるツールです。

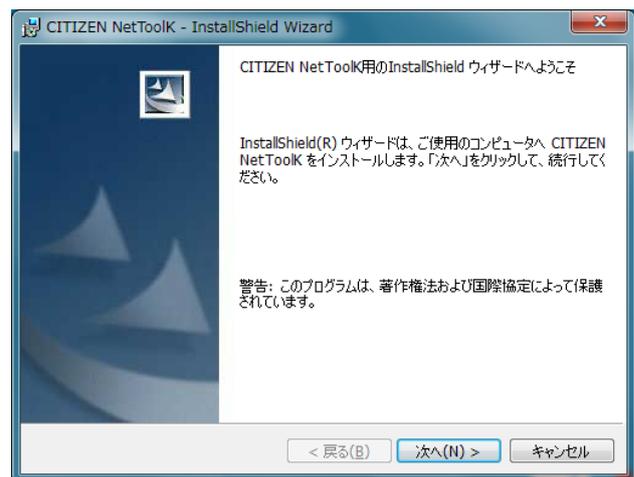
本インターフェースボードでは無線 LAN は関係ありませんが、無線 LAN の説明を含んでいます。

5-1. NetToolK をインストールする

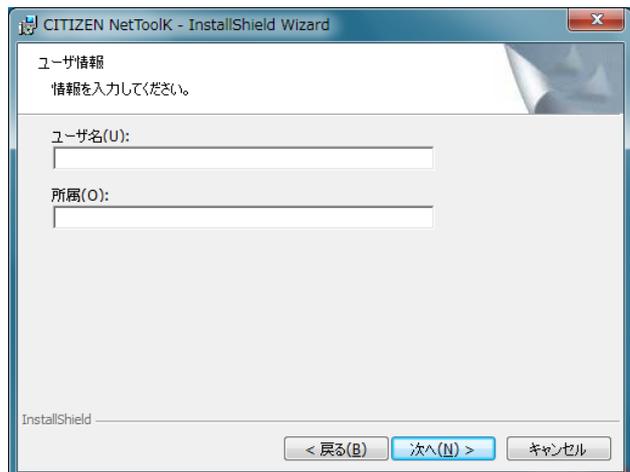
1) CD-ROM や弊社 WEB から入手した「NetToolKSetup.exe」をダブルクリックしてください。

2) 「ユーザーアカウント制御」画面が表示される場合は、「続行」をクリックしてください。

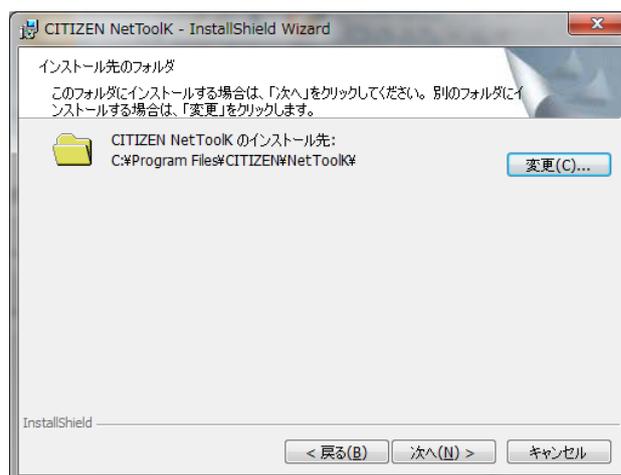
3) 右の画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。



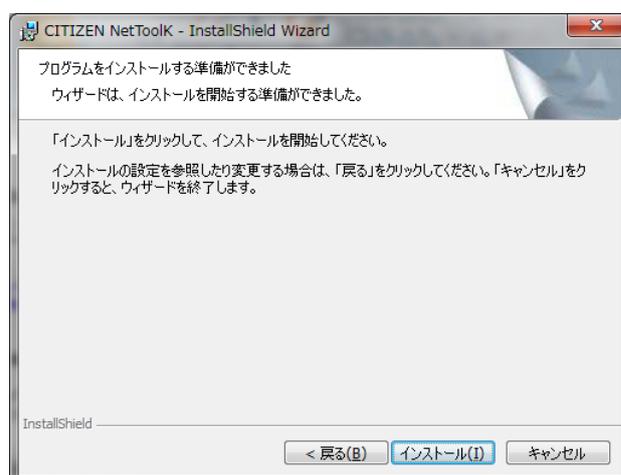
4) ユーザー名と所属を入力して、「次へ」をクリックしてください。



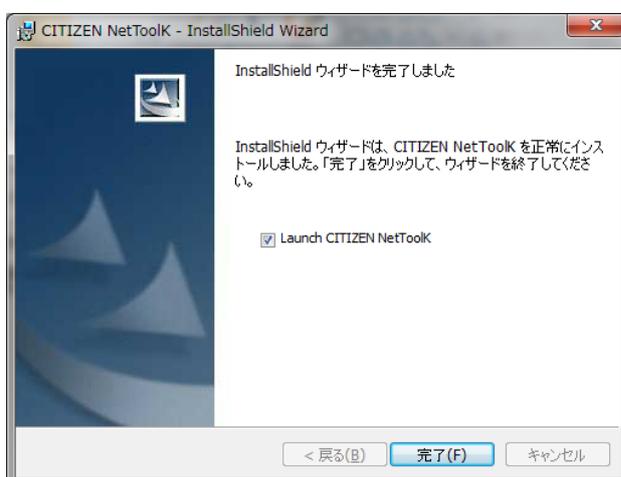
- 5) 右の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



- 6) 右の画面が表示されます。「インストール」をクリックしてください。

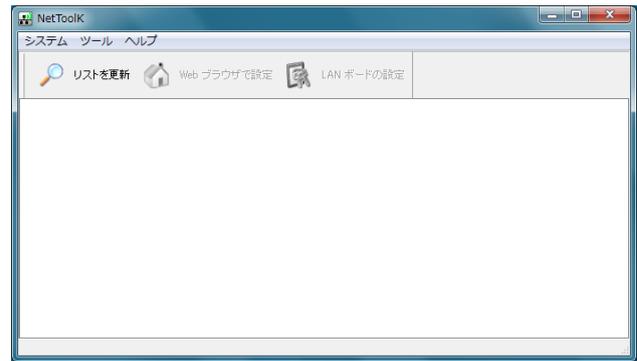


- 7) 「完了」をクリックして、インストールを終了します。



5. NetToolK

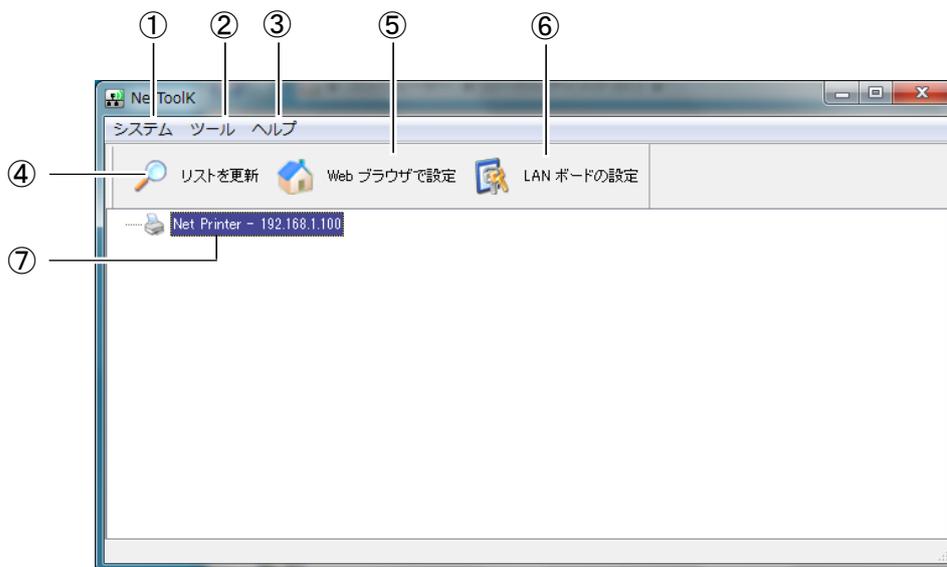
- 8) PC 設定ツールが起動します。「システム／終了」メニューで終了します。



- 9) PC のデスクトップ上に右のアイコンが登録されます。次回以降、アイコンをダブルクリックして、起動します。



5-2. 情報リスト画面

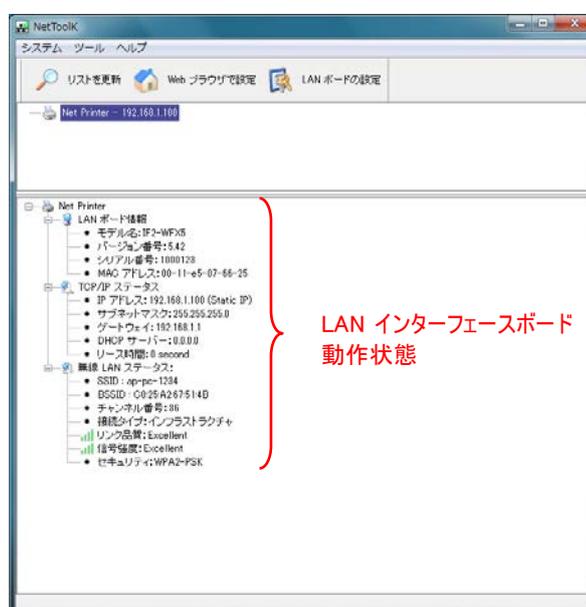


① 「システム」

「システム」-「終了」メニュー：NetToolK を終了します。

② 「ツール」

「ツール」-「設定」メニュー：LAN インターフェイスボード情報の表示切り替えを設定します。「LAN ボード情報を表示する」をチェックすると、下のよう LAN インターフェイスボードの動作状態を表示することができます。



- ③ 「ヘルプ」メニュー
「ヘルプ」-「バージョン情報」メニュー：NetToolK のバージョン情報を表示します。

- ④ 「リストを更新」ボタン
LAN インターフェイスボードの一覧を更新します。定期的に、アプリケーションで更新処理が行われていますが、手動で一覧を更新したい場合に使用します。

- ⑤ 「Web ブラウザで設定」ボタン
設定したい LAN インターフェイスボードを選択して、「Web ブラウザで設定」ボタンをクリックすると、ブラウザが起動して、Web マネージャを表示します。

- ⑥ 「LANボードの設定」ボタン
設定したいインターフェイスボードを選択して、「LANボードの設定」ボタンをクリックすると、「5-3 設定画面」(33 ページ)を表示します。

- ⑦ LAN インターフェイスボード一覧
ネットワーク上に接続している LAN インターフェイスボードの一覧を表示します。同一サブネット内に接続している LAN インターフェイスボードが表示されます。

5-3. 設定画面

リスト一覧画面で、LAN インターフェースボードを選択して、「LAN ボードの設定」ボタンをクリックすると、LAN インターフェースボードの設定を行うことができます。

ログイン画面で、ユーザー名とパスワードを入力して、ログインしてください。

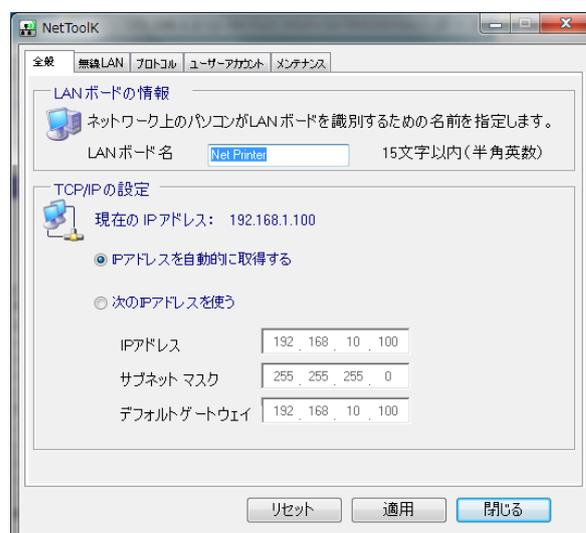
ユーザー名 初期値: admin

パスワード 初期値: admin



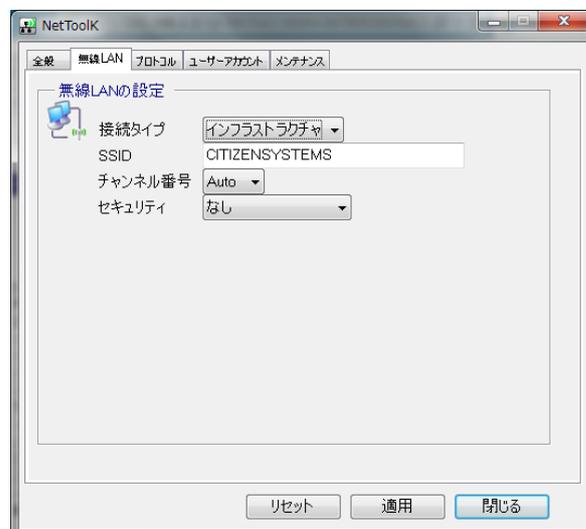
5-3-1. 「全般」タブ

「全般」タブでは、LAN ボード名、IP アドレスの設定を行います。



5-3-2. 「無線 LAN」タブ

「無線 LAN」タブでは、無線 LAN の設定を行います。
(このタブは、有線 LAN インターフェースボードでは表示されません。)



5-3-3. 「プロトコル」タブ

「プロトコル」タブでは、LPR の有効／無効、RAW プロトコルの有効／無効、プリントタイムアウト時間、有線 LAN 優先接続の有効／無効、UPnP 機能の有効／無効を設定することができます。
(有線 LAN の場合は、「有線 LAN を優先する」は表示されません。)

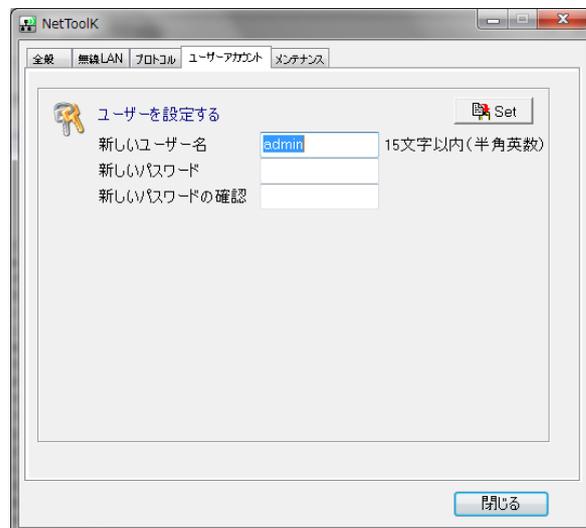


5-3-4. 「ユーザーアカウント」タブ

「ユーザーアカウント」タブでは、管理者名、パスワードを変更することができます。

注意

変更したユーザー名とパスワードを忘れた場合は、初期時設定に戻す必要があります。

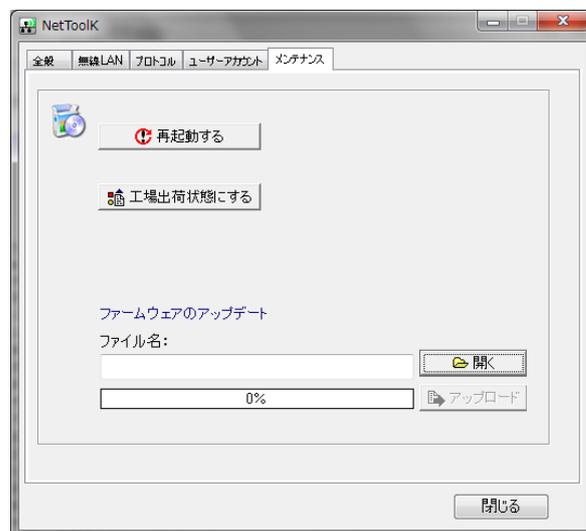


5-3-5. 「メンテナンス」タブ

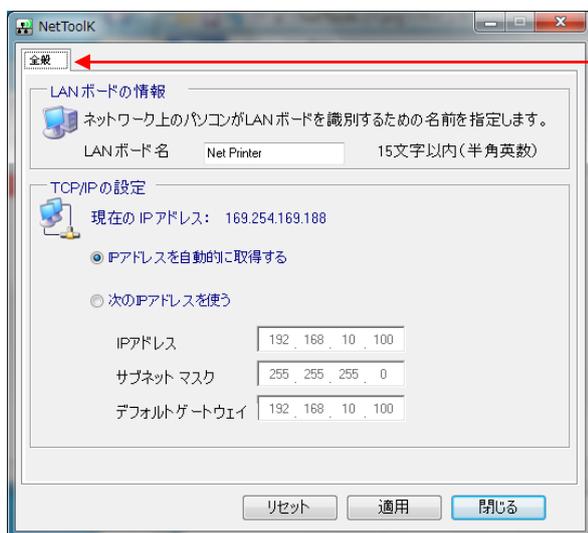
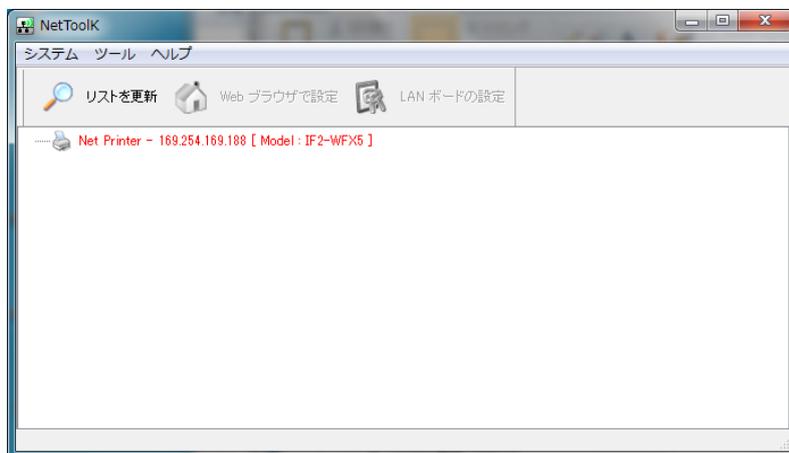
「メンテナンス」タブでは、LAN インターフェイスボードの再起動、初期状態への設定変更、ファームウェアの更新を行うことができます。

注意

ファームウェアのアップデートを開始後、アップデートが完全に終了するまでは、プリンターの電源切断や通信切断を絶対に控えてください。



(注意) 設定行っている PC と LAN インターフェースボードのサブネット値が異なっている場合には、下記のように、赤字で一覧に表示されます。この場合には、「LANボードの設定」で IP アドレスを設定してから、LAN インターフェースボードの設定を行って下さい。



ボード名、IP アドレス以外の設定はできません。一度 IP アドレスを正しく設定してから、LAN インターフェースボードの設定を行ってください。

6. XML 機能

6-1. 概要

XML 機能とは、受信した XML タグ形式の特殊なデータをプリンターのコマンドなどに変換して、印刷等の機能を実現する本インターフェイスボードの機能です。

XML タグ形式のデータとそれを生成する JavaScript ライブラリなどについては、別途用意された CITIZEN XML Print サービスに関するドキュメントを参照ください。

この機能を使うには、以下の条件が満たされる必要があります。

プリンターが XML 機能をサポートしたモデルであること

本インターフェイスボードが接続されていること

プリンターと本インターフェイスボードのファームウェアのバージョンが XML 機能をサポートしたものであること

条件に合っていると Web マネージャ上、STATUS 画面に Service Status タブ、CONFIG 画面に Service タブ、SSL/TLS タブが表示されます。

これらの機能を利用する場合、XML タグ形式データの送信先の URL は以下の通りです。

ポート番号による URL 指定方法を利用する場合は、ポート番号の設定により数字部分が変わります。

		URL
HTTP	XML Print サービス	http://IP アドレス:8080/ http://IP アドレス/xmlprint/
	XML Config サービス	http://IP アドレス/xmlconfig/
HTTPS	XML Print サービス	https://IP アドレス/xmlprint/
	XML Config サービス	https://IP アドレス/xmlconfig/

6-2. CONFIG>>Service タブ

6-2-1. XML Print

項目	初期値	設定範囲	説明
Port Number	8080	1025～65535	接続ポート番号
Timeout for connect	10	5～60	印刷開始待ちのタイムアウト時間
Timeout for print	60	10～600	プリンター処理完了待ちのタイムアウト時間

6-2-2. XML Config

一部の設定項目を一括で設定する機能です。

詳しくは、「CITIZEN XML Config サービス JavaScript Config SDK プログラムマニュアル」を参照ください。

項目	初期値	設定範囲	説明
Timeout for connect	10	5～180	処理開始待ちのタイムアウト時間

6-2-3. Submit / Reset ボタン

設定変更後は、画面下部の”Submit”ボタンを押し、Maintenance メニューの”Save & Reboot”ボタンを押し、ボード再起動後に有効になります。

7. SSL/TLS 機能

7-1. 概要

SSL/TLS 対応の必要性

ネットワーク上に流れる通信データの第 3 者による盗聴、改ざん、なりすましを防ぐためには、暗号化通信が必要になります。暗号化通信の基盤として SSL/TLS というプロトコルが標準となっています。

Web データや XML データの送受信には http プロトコルを利用しますが、それを SSL/TLS に対応したものが https です。ホストとプリンター間の通信を https で行う場合はプリンターも SSL/TLS に対応する必要があります。

SSL/TLS 対応の概要

SSL/TLS での暗号化通信には、デジタル署名付き証明書(以下署名証明書)が必要になります。署名証明書をサーバーが保存し、クライアント側がその証明書を信頼できるものと確認、または承認することで SSL/TLS による暗号化通信が可能になります。

署名証明書には公的認証局(CA)が署名したものと自身が認証局として署名した自己署名証明書があります。

自己署名証明書の場合、クライアント側で証明書が信頼できると認定することで警告なしに通信できるようになります。そのために、本ボードには認定のための固有情報等が含まれたファイルをエクスポートする機能があります。

公的認証局の署名が付与された署名証明書をインポートして、よりセキュアな通信をすることもできます。

本ボードと通常のサーバーにおける署名証明書の準備の手順の違いについて

SSL/TLS 通信をするには、署名付き証明書ファイルと秘密鍵のファイルが必要になります。通常のサーバーでこれらを準備するための大まかな手順は、以下のとおりです。

1. 証明書を要求する申請者が秘密鍵を生成
2. 申請者は、申請者の識別情報を入力し、自身の秘密鍵で署名を付加して CSR(証明書署名リクエスト)を作成
3. 申請者は CSR を署名局に提出(署名局とは申請者の用意した自己認証局、または外部の公的認証局)
4. 署名局は、自身の秘密鍵による署名を CSR に付与した証明書を生成、申請者に返送
(提出された認証局により、自己署名証明書、もしくは公的署名証明書になる)
5. 申請者は、署名付き証明書ファイルと自身の秘密鍵ファイルを保管、配置

本ボードには内部に秘密鍵や自己認証局などが用意されており、自己署名証明書を使う場合は、上記手順 2 の識別情報の入力だけを行うだけで済みます。(詳細手順は 7-3-1 自己署名証明書の作成とエクスポートを参照)

一方、本ボードで公的署名証明書を使う場合は、上記1から 4 までの手順をユーザー側で行って頂き、手順 5 の公的認証局の署名付き証明書ファイルと申請者の秘密鍵のファイルを本ボードに取り込み保管、配置するという形を取ります。(本ボードとは関係なくユーザーがご自身で用意した自己署名証明書を公的署名証明書と同様に本ボードに取り込むことも可能です。)

証明書の期限

署名証明書には有効期限があり、有効期限内に新しい期限に更新する必要があります。期限を更新するための画面も用意されています。XML Config 機能を使って、XML ファイルをプリンターに送ることで更新することもできます。

証明書の種類と以降の章の説明について

証明書を発行する認証局と証明書の本ボードでの取り扱い方法は以下の通りです。

- A、内部証明書: プリンター内部で生成、保存された自己署名証明書
- B、ローカル証明書: ローカルネットワーク上の私的認証局(CA)による署名証明書をインポートしたもの
- C、公的証明書: インターネット上の公的認証局(CA)による署名証明書をインポートしたもの

以降の章の説明が A,B,C のどの証明書に該当するかは、以下の通りです。

章	A、内部証明書	B、ローカル証明書	C、公的証明書
7-2-1	該当	該当	該当
7-2-2	該当		
7-2-3	該当		
7-3-1	該当		
7-3-2	該当	該当	
7-4-1	該当	該当	該当
7-4-2	該当		
7-4-3		該当	該当
7-4-4	該当	該当	該当

ローカル証明書には、認証対象サーバーと認証局が同じ場合、認証対象サーバーと認証局が別な場合があります。その差は各章の説明が該当するかしないかには影響しないので、ここでは区別していません。

ただし、使用するブラウザなどにより、この2つの条件での差が出る場合があります。

7-2.CONFIG>>SSL/TLS タブ

7-2-1. SSL 設定画面

The screenshot shows the SSL/TLS configuration page. The 'Service' is set to 'Disable'. Under 'Certificate Setting', 'Self-Signed Certificate' is selected. There are sections for 'Self-Signed Certificate' and 'CA-Signed Certificate'. The 'CA-Signed Certificate' section has fields for 'CA-Signed Certificate File' and 'Private Key File', both with 'ファイルを選択' (Select File) buttons and '選択されていません' (Not selected) text. At the bottom are 'Submit' and 'Reset' buttons.

SSL/TLS Setting

- Service
SSL/TLS 機能を有効にするかを設定します。

Certificate Setting

- Server Certification
Self-Signed Certificate(自己署名証明書)、CA-Signed Certificate(CA署名証明書)の中から、SSL/TLS 通信で使用する証明書を選択します。

Self-Signed Certificate

- 「Create」ボタン
「7-2-2 自己署名証明書作成画面」(41 ページ)を表示します。
- 「Update」ボタン
「7-2-3 署名証明書更新画面」(42 ページ)を表示します。
- 「Export」ボタン
クライアントへサーバー情報をインストールするための証明書をエクスポートします。
証明書更新の場合は再インストール不要です。
- 「Delete」ボタン
作成された自己署名証明書を削除します。

CA-Signed Certificate

- CA-Signed Certificate File
インポートする公的署名証明書ファイルを選択します。
- Private Key File
インポートする秘密鍵ファイルを選択します。
- 「Import」ボタン
選択された証明書と秘密鍵をプリンターにインポートします。
- 「Delete」ボタン
インポートされた証明書と秘密鍵を削除します。

7-2-2. 自己署名証明書作成画面

Create Self-Signed Certificate

(Certificate Settings で CA-Signed Certificate を選んだ場合も画面は同じです。)

Issuer サーバーを運営する組織(管理者)に関する情報の入力欄だということを示しています。

- Common Name (初期値: 使用中の IP アドレス)
 プリントサーバーの IP アドレスや FQDN (完全修飾ドメイン名) を入力します。
- Organization Unit
 運営組織の部署名 を入力します。
- Organization (初期値: CITIZEN SYSTEMS JAPAN)
 運営組織名 を入力します。
- Locate
 運営組織の所在地(市区町村) を入力します。
- State
 運営組織の所在地(都道府県) を入力します。
- Country (初期値: JP)
 運営組織の所在地(国) を入力します。アルファベット 2 文字の国名コードで入力してください。
- Validity (Not Before) (初期値: 入力日)
 証明書有効期間の開始日 を入力します。
- Validity (Not After) (初期値: 入力日の 1 年後)
 証明書有効期間の終了日 を入力します。
- Internal Certification Authority
 証明書更新に関する情報の入力欄です。
- Validity (Not Before) (初期値: 入力日)
 証明書の更新を行いたい期間の開始日 を入力します。証明書有効期間より前の日付を指定してください。
- Validity (Not After) (初期値: 2049/12/31)
 証明書の更新を行いたい期間の終了日 を入力します。証明書有効期間より後の日付を指定してください。

7-2-3. 署名証明書更新画面

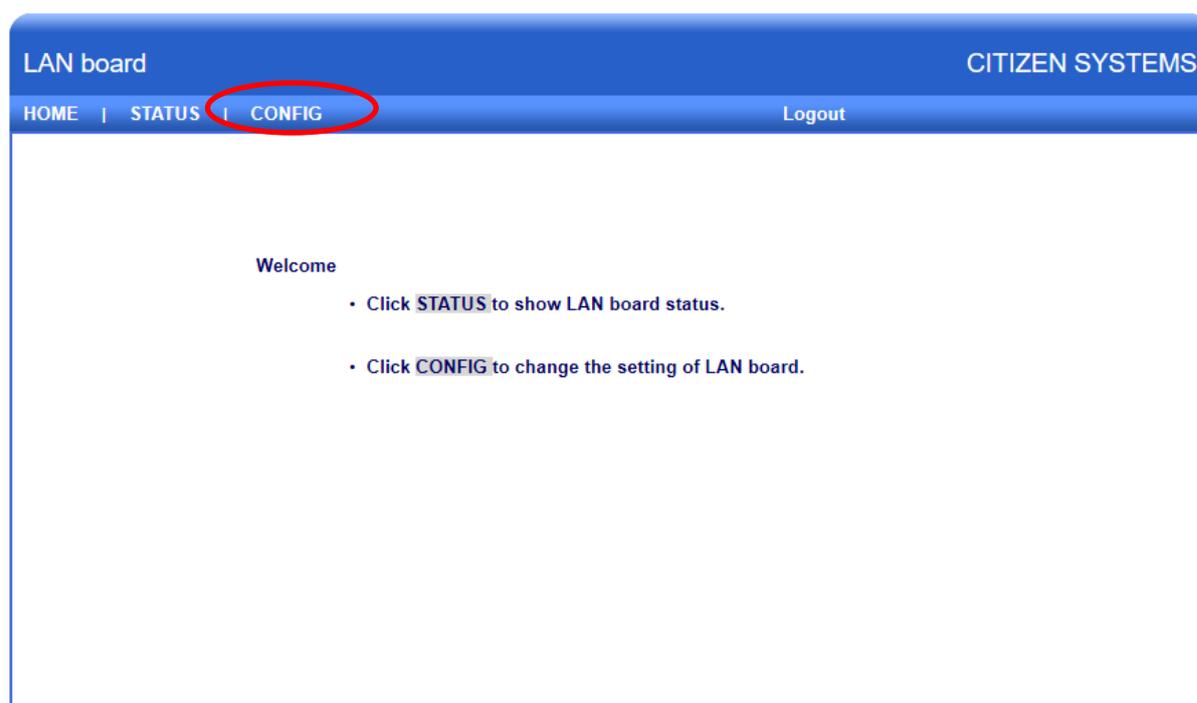
Update Self-Signed Certificate (CA-Signed Certificate の Update の画面の項目も同様です。)

- Issuer
サーバーを運営する組織(管理者)に関する情報の入力欄です。
- Common Name
プリントサーバーの IP アドレスや FQDN (完全修飾ドメイン名) を入力します。
- Organization Unit
運営組織の部署名 を入力します。
- Organization
運営組織名 を入力します。
- Locate
運営組織の所在地(市区町村) を入力します。
- State
運営組織の所在地(都道府県) を入力します。
- Country
運営組織の所在地(国) を入力します。アルファベット 2 文字の国名コードで入力してください。
- Validity (Not Before) (初期値: 入力日)
証明書有効期間の開始日 を入力します。証明書更新が可能な期間内の日付を設定してください。
- Validity (Not After) (初期値: 入力日の 1 年後)
証明書有効期間の終了日 を入力します。証明書更新が可能な期間内の日付を設定してください。
- Internal Certification Authority
証明書更新に関する情報を表示します。
- Validity (Not Before)
証明書更新が可能な期間の開始日 を表示します。
- Validity (Not After)
証明書更新が可能な期間の終了日 を表示します。

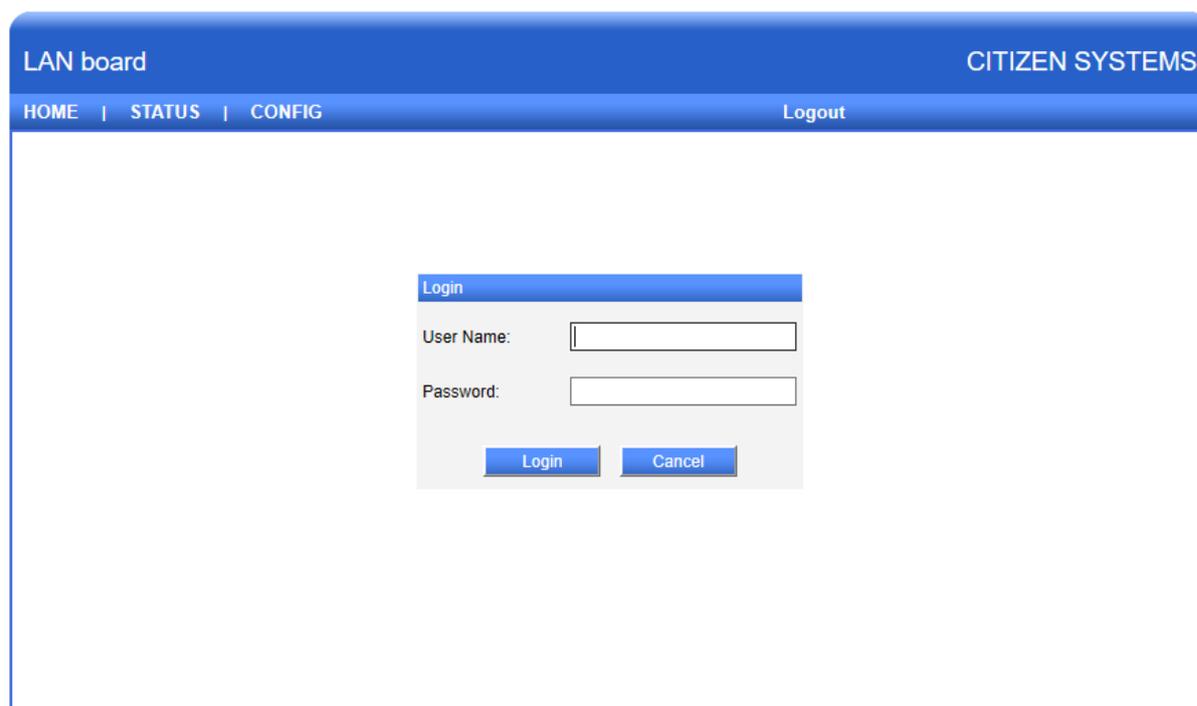
7-3. 自己署名証明書を使用した SSL/TLS 通信を有効にする手順

7-3-1. 自己署名証明書の作成とエクスポート

1) ブラウザからボードの IP アドレスにアクセスして下さい。2) "CONFIG"タブを選択します。



3) User Name: admin、Password:admin を入力して、設定画面に入ります。



7. SSL/TLS 機能

4) 固定 IP を設定して、「Submit」ボタンを選択します。

The screenshot shows the 'LAN board' configuration interface for 'CITIZEN SYSTEMS'. The 'CONFIG' tab is active, and the 'SSL/TLS' sub-tab is selected. The 'TCP/IP' section is expanded, showing the following settings:

- Obtain an IP Address Automatically:
- Use the following IP Address:
- IP Address: (15 letters[max.])
- Subnet Mask: (15 letters[max.])
- Default Gateway: (15 letters[max.])

The 'Submit' button is circled in red. Other sections visible include 'UPnP Setting' (UPnP: Enable), 'Print Settings' (Raw Port Number: 9100, Timeout for print data: 180), and 'Action at Timeout' (Close all connections:).

5) 「SSL/TLS」タブを選択して、SSL/TLS 設定画面に移って下さい。

6) 「Create」ボタンを押して、自己証明書情報入力画面に入ってください。

The screenshot shows the 'LAN board' configuration interface for 'CITIZEN SYSTEMS'. The 'CONFIG' tab is active, and the 'SSL/TLS' sub-tab is selected. The 'SSL/TLS Setting' section is expanded, showing the following settings:

- Service: Enable
- Server Certification:
- Self-Signed Certificate:
- CA-Signed Certificate File: 選択されていません
- Private Key File: 選択されていません

The 'Create' button is circled in red. Other sections visible include 'CA-Signed Certificate' (Import: , Delete:) and 'Submit' / 'Reset' buttons at the bottom.

7) Common Name に、固定 IP を入力してください。

Validity は、最初のものがボードに保存する証明書の有効期間で、2 番目のものがエクスポートするファイルに持たせる有効期間となります。基本的に変更不要です。

最初の Validity が 2 番目の Validity の期間外に設定されているとエラーとなります。

8) 「Create」ボタンを押して下さい。

LAN board CITIZEN SYSTEMS

HOME | STATUS | CONFIG Logout

General | Service | **SSL/TLS** | Request Print | User Account | Maintenance

Create Self-Signed Certificate

Issuer

Common Name *

Organization Unit

Organization *

Locate

State

Country * 2 characters

Validity (Not Before) * YYYY/MM/DD

Validity (Not After) * YYYY/MM/DD

Internal Certification Authority

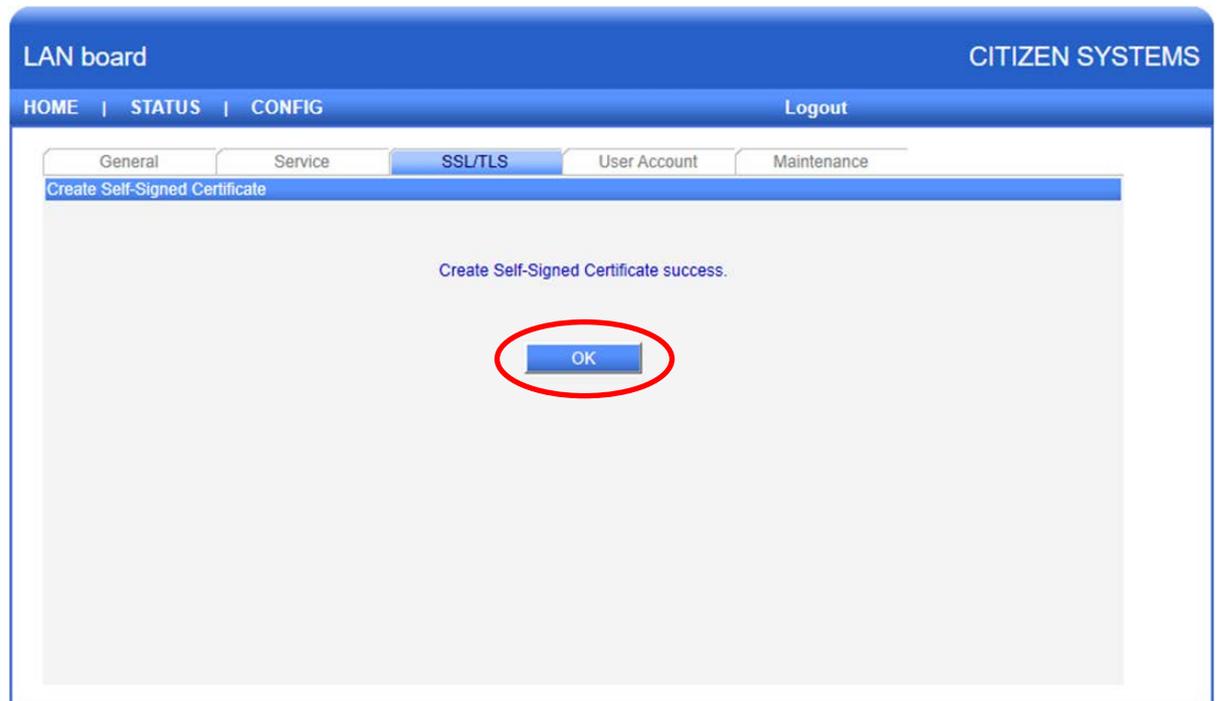
Validity (Not Before) * YYYY/MM/DD

Validity (Not After) * YYYY/MM/DD

* mandatory field

7. SSL/TLS 機能

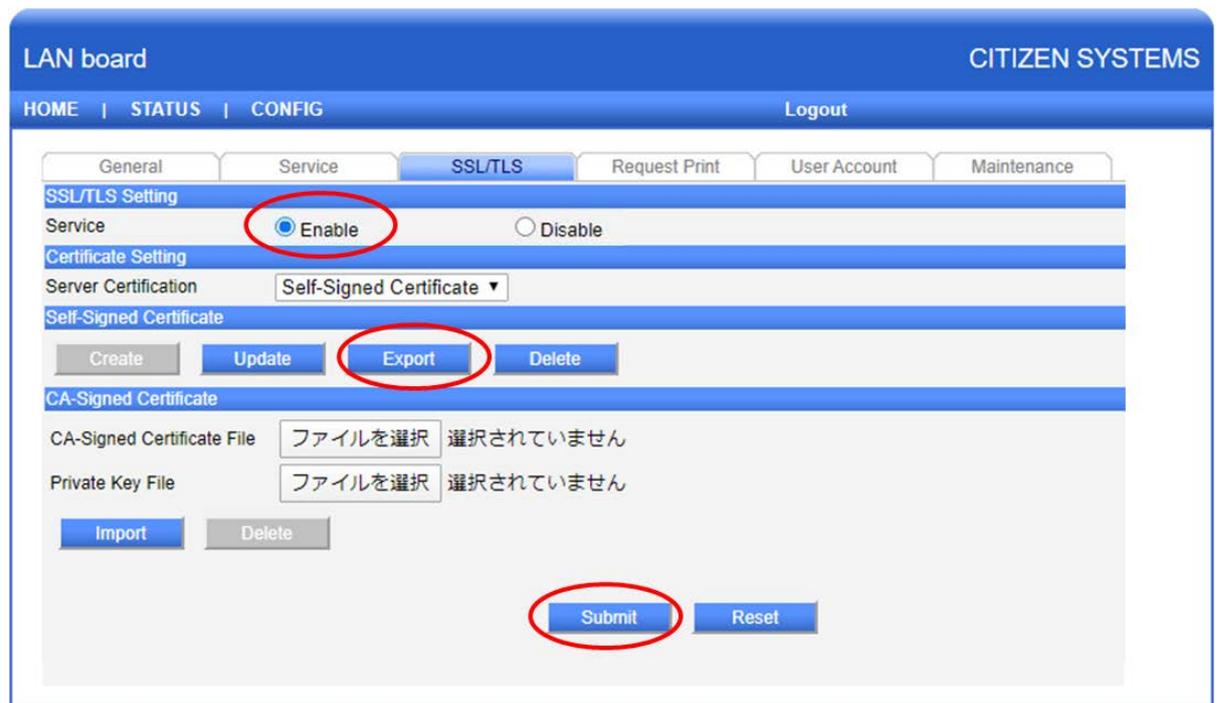
9) 「OK」ボタンを押して下さい。



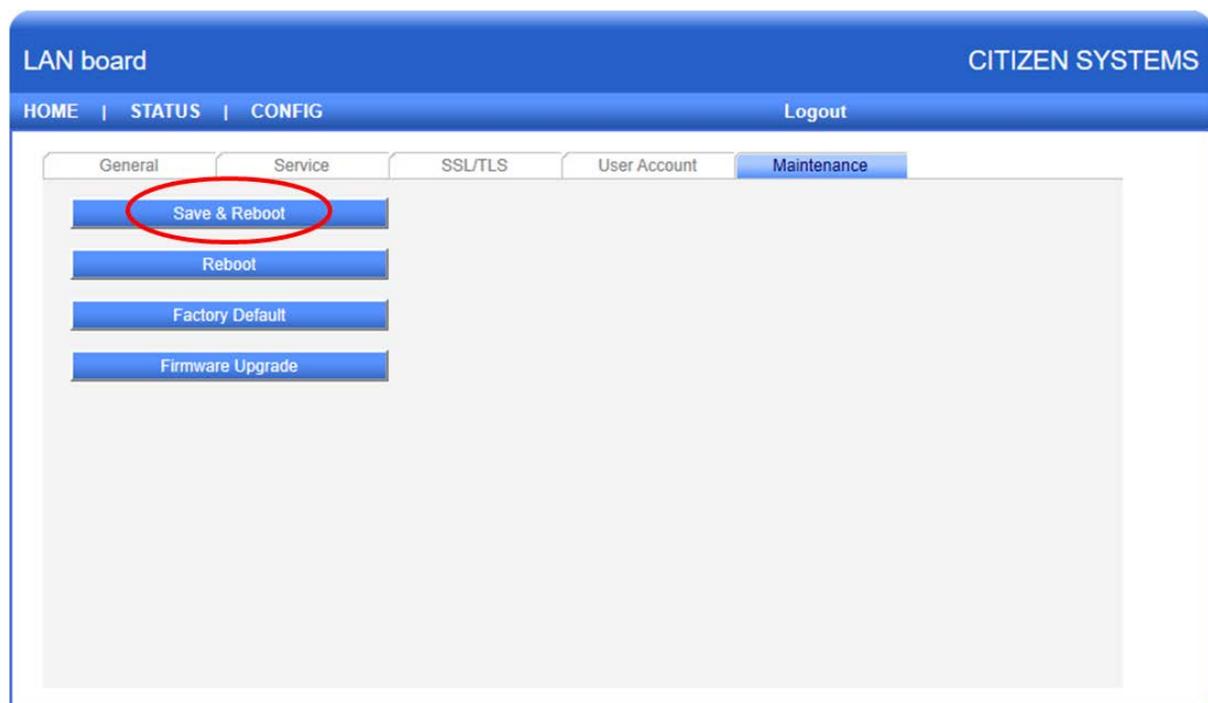
10) SSL/TLS Setting の Service で “Enable”、Server Certification で “Self-Signed Certificate” を選択して下さい。

11) 「Export」ボタンを押し自己証明証明書ファイルを保存します。ファイルはブラウザへのインポートで使用します。

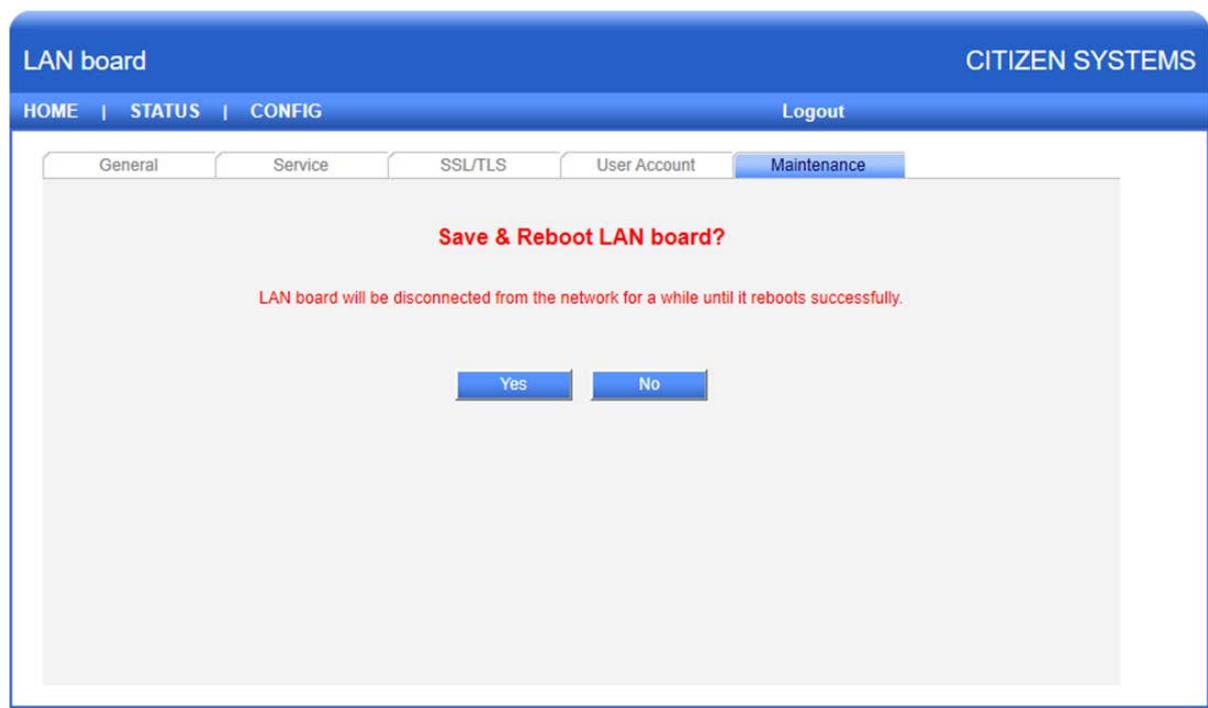
12) 「Submit」ボタンを押して下さい。



13) 「Save & Reboot」を押して下さい。



14) 「Yes」ボタンで、保存 & 再起動を行って下さい。

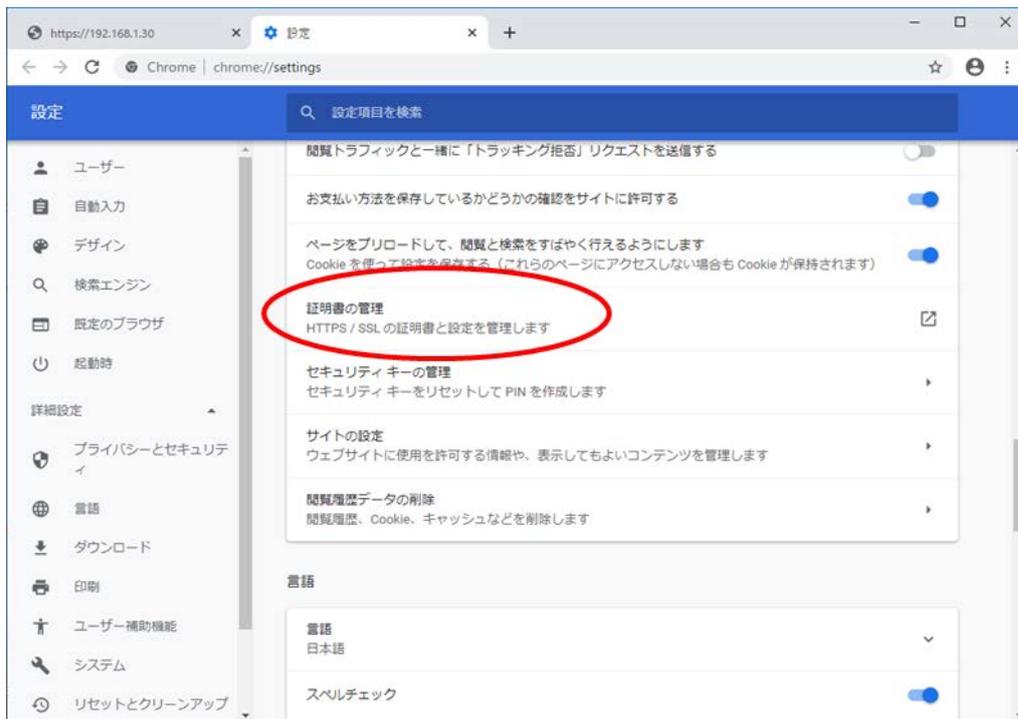


ボードが再起動するまでお待ちください。再起動後に、設定変更が反映されます。

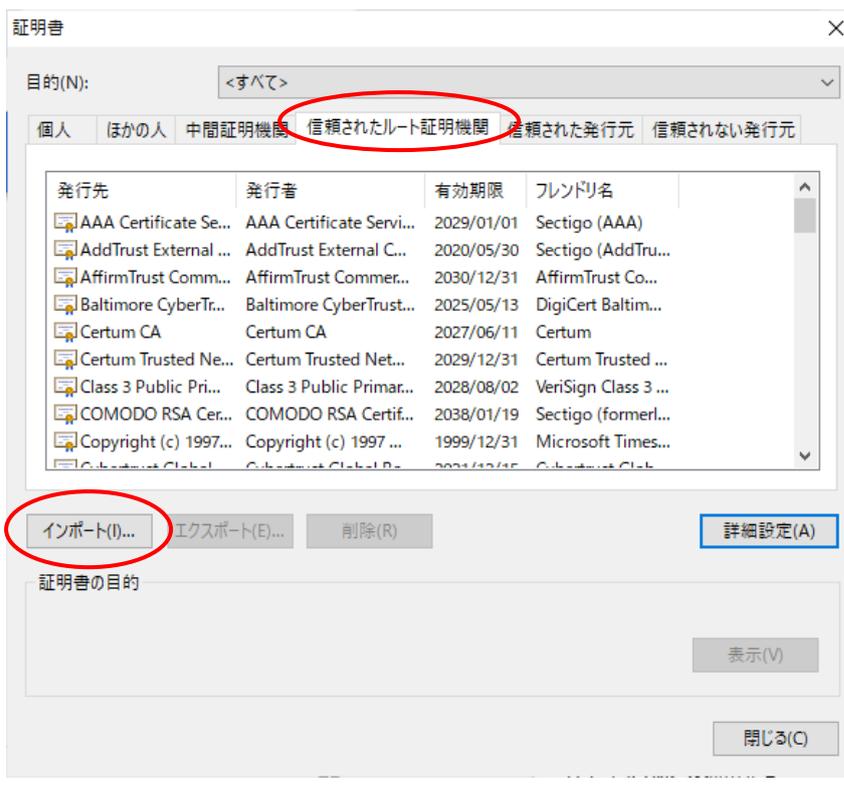
7. SSL/TLS 機能

7-3-2. ブラウザでの自己署名証明書のインポートの例(Chrome)

Chrome の設定画面 → プライバシーとセキュリティ → セキュリティ → 「証明書の管理」を選択します。



「信頼されたルート証明機関」タブを選択した状態で、「インポート」ボタンを押します。



「次へ」を選択します。

×

← 証明書のインポートウィザード

証明書のインポート ウィザードの開始

このウィザードでは、証明書、証明書信頼リスト、および証明書失効リストをディスクから証明書ストアにコピーします。

証明機関によって発行された証明書は、ユーザー ID を確認し、データを保護したり、またはセキュリティで保護されたネットワーク接続を提供するための情報を含んでいます。証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

続行するには、[次へ] をクリックしてください。

次へ(N) キャンセル

7-3-1 でエクスポートした自己署名証明書ファイルを指定し、「次へ」を押します。

×

← 証明書のインポートウィザード

インポートする証明書ファイル

インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):

参照(R)...

注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

- Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX,.P12)
- Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)
- Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

次へ(N) キャンセル

「次へ」を選択します。

← 証明書のインポートウィザード ×

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。

証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

証明書をすべて次のストアに配置する(P)

証明書ストア:

信頼されたルート証明機関

「完了」を選択します。

← 証明書のインポートウィザード ×

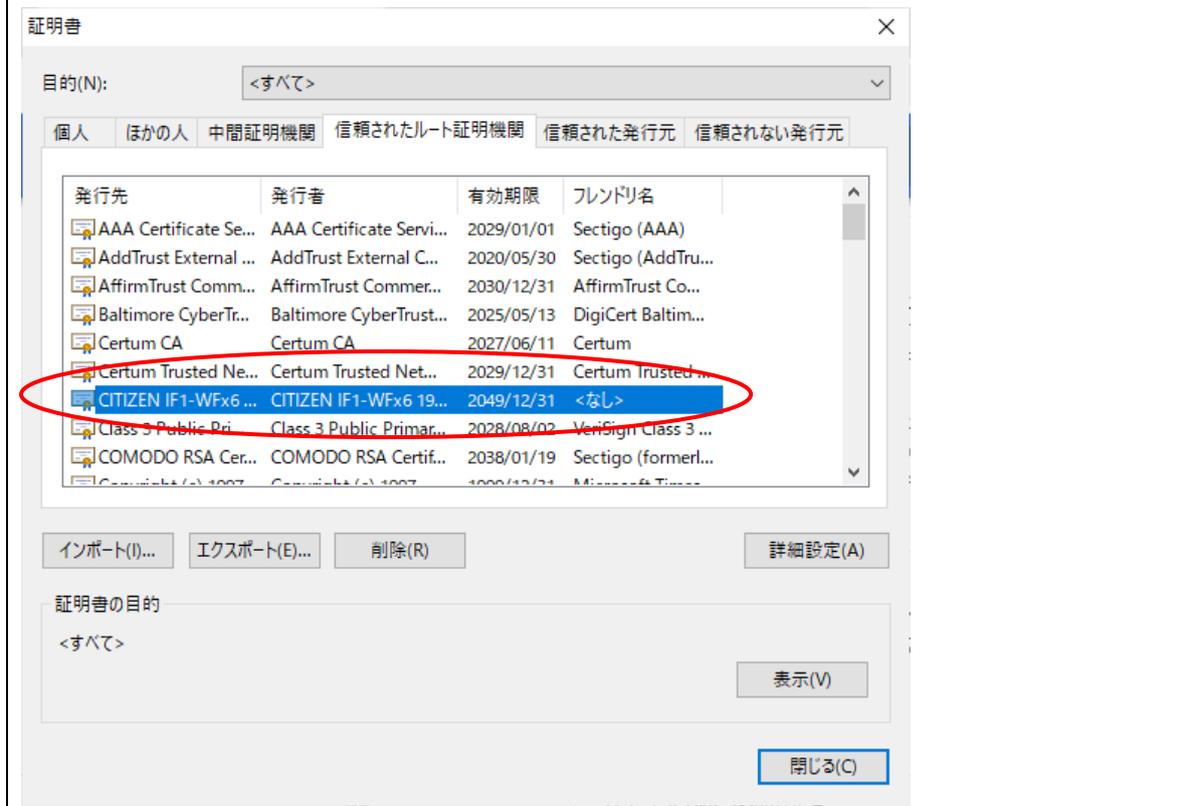
証明書のインポート ウィザードの完了

[完了] をクリックすると、証明書がインポートされます。

次の設定が指定されました:

ユーザーが選択した証明書ストア	信頼されたルート証明機関
内容	証明書
ファイル名	C:\CITIZEN\CitizenCertificate.crt

セキュリティ警告が出たら「はい」を押して、証明書のインストールを終了させます。これにより、プリンターの自己署名証明書が“信頼されたルート証明機関”に登録されます。



これで、この Chrome とプリンターの間では、警告無しに https による SSL/TLS 通信が可能になります。他のブラウザでも基本的の同じ手順となります。

注

本ボードからエクスポートした自己署名証明書を使う場合は、警告が出ないようにするにはこの手順のようにブラウザごとに証明書をインポートする必要がありますが、ユーザーが本ボードとは別に用意した自己署名証明書であれば、公的署名証明書と同様に自己署名証明書と秘密鍵をセットで本ボードに登録することで、ブラウザごとに証明書をインポートしなくても警告が出ないようになります。詳細については、お問い合わせください。

7-4. SSL/TLS、証明書関係の仕様

7-4-1. SSL/TLS 通信仕様

TCP/IP バージョン	TCP/IP v4
SSL/TLS バージョン	TLS1.2(SSL3.3)
アプリケーション プロトコル	HTTPS(サーバー認証)
TCP 通信 ポート番号	443
対応証明書	自己署名証明書 CA 署名証明書
暗号化アルゴリズム	AES 128/256
ハッシュアルゴリズム	SHA2-256, SHA1
鍵交換方式	RSA 2048 bit

サポートする暗号スイート

優先順位	暗号スイート
1	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256
2	TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256
3	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
4	TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
5	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
6	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256
7	TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256
8	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256
9	TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256
10	TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256
11	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256
12	TLS_DHE_RSA_WITH_CHACHA20_POLY1305_SHA256
13	TLS_ECDHE_RSA_WITH_CHACHA20_POLY1305_SHA256
14	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
15	TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
16	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA

7-4-2. 自己署名証明書関連の仕様

Web マネージャ画面に必要な項目を入力、操作することにより、本ボード上で署名証明書を発行、保存、エクスポートすることができます。工場出荷時には証明書情報がない状態です。

自己署名証明書入力項目

Field	項目	初期値	使用可能な文字と記号	最大文字数
Issuer Subject	コモンネーム (CN)	使用 IP アドレス ※1	半角英数文字、半角スペース、 “-” ハイフン、“.” ドット (IP アドレス以外を入力可)	64 文字
	運営組織の部署名 (OU)	(空白)	半角英数文字、半角スペース、 “,” カンマ、“+” プラス、 “-” ハイフン、“.” ドット、	64 文字
	運営組織名(O)	CITIZEN SYSTEMS JAPAN	“/” スラッシュ、“_” アンダースコア、 “(” かっこ、“)” 閉じかっこ	128 文字
	運営組織の所在地: 市区町村(L)	(空白)	“(” かっこ、“)” 閉じかっこ	128 文字
	運営組織の所在地: 都道府県(S)	(空白)		128 文字
	運営組織の所在地: 国(C)	JP	半角英文字	2 文字
Validity (Not After)		2049/12/31 または、作 成日時 of 1 年後	YYYY/MM/DD (2020/01/01 ~ 2049/12/31)	
Validity (Not Before)		2020/01/01 または作成 日時	YYYY/MM/DD (2020/01/01 ~ 2049/12/31)	

証明書の作成で設定されるその他の項目は下記の表のように入力されています。ユーザーによる変更はできません。

自己署名証明書 固定情報

Field	項目	固定値
Certificate Subject Alt Name	DNS Name	コモンネーム(CN)
	IP Address	コモンネーム(CN) コモンネームが IP アドレスの場合
Certificate Key Usage		Non-repudiation, Digital Signature, Key Encipherment (a0)
Extended Key Usage		TLS Web Server Authentication (1.3.6.1.5.5.7.3.1)
		TLS Web Client Authentication (1.3.6.1.5.5.7.3.2)
Certificate Basic Constraint	Subject Type	End Entity
	Path Length	None
	Constraint	

内部認証局の署名付き証明書ファイルの エクスポートの仕様

エンコードタイプ	Base64
拡張子	.crt
バージョン	V3
鍵交換方式	RSA 2048 bit
署名アルゴリズム	SHA2-256 with RSA

7-4-3. CA 署名証明書関連の仕様

インポートし、使用できる CA 署名証明書の仕様は、下記のとおりです。

証明書と秘密鍵がペアになっていることを確認した上でインポートを行ってください。

CA 署名証明書	.pem 形式 / .der 形式
秘密鍵	.key 形式 (パスワード保護 非対応)
暗号化アルゴリズム	AES 128/256
ハッシュアルゴリズム	SHA2-256, SHA1
鍵交換方式	RSA 2048 bit

7-4-4. 保存された証明書の工場出荷設定復元・ファームウェアアップデート時の扱い

CONFIG>Maintenance タブの Factory Default の処理が行われた時には、各設定値を初期値に設定し、登録された証明書を削除します。Firmware Upgrade の処理が行われた時には、各設定値と登録された証明書は保持されます。